



2006  
**6**  
vol.369

C O N T E N T S

- 2 第4回世界のウチナーンチュ大会  
ルーツはウチナーンチュ
- 4 県政フラッシュ
- 6 特集1 「国民保護法」ってなんだろう?
- 8 特集2 やんばるの豊かな自然を守ろう
- 10 特集3 気をつけよう!! 海のキケン生物
- 12 亜熱帯 美ツクリレンズ  
—やんばるに暮らす生き物たちの素顔—
- 14 愛ランドまーい  
地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて
- 16 県の動き1  
タバコの健康への影響を考えましょう
- 17 県の動き2  
音楽体験! クラシックコンサートを楽しむ
- 18 情報広場 おしらせ
- 20 おきなわ夢人列伝

表紙写真  
「花の島、沖縄四季抄」  
6月号表紙写真 「イジュ」  
写真：久高 将和 (くたか まさかず)

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」は、県の施策や情報をわかりやすく県民のみならずにお伝えする冊子です。公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料配布しています。

沖縄県広報課 TEL.098-866-2020  
http://www.pref.okinawa.jp/churahome/

# ルーツは ARGENTINA

## ウチナーンチュ

移民の歴史に学ぶ、次世代の国際交流

いま、広く海外に暮らすウチナーンチュは、およそ三十五万人。そのルーツは、志を胸に新天地に渡った移民たちです。移民が築いた絆を子や孫へ。世界的なウチナーネットワークを継承するため、来る十月十二日から「第四回世界のウチナーンチュ大会」が開催されます。

本大会に先立って、県内の学校では、世界中に移り住むウチナーンチュを通して世界のことを学ぶ「一校一國運動」などを展開。次世代の国際交流の担い手を育成しています。

国際性豊かな沖縄市での移民学習

「二校一國運動」アルゼンチン交流パイロット校 美原小学校



身振り手振りで購入物にチャレンジする生徒たち。

世界の民族衣装を身にまといっこり。



音楽やファッション、食べ物など国際性豊かな沖縄市にある美原小学校は、「二校一國運動」のアルゼンチン交流パイロット校として世界のウチナーンチュ大会に参加しています。

同校では、沖縄市の国際交流員の花城カーリーナさんを講師に招いて、「出前講座」を実施。当日は四年生が、クイズやカルタ、そして移民体験記で移民の目的、移住国、渡航に要した日数など、沖縄県人の移民について学びました。

また、生徒たちはロールプレイに参加しながら、実際に言葉の通じない移民国での買い物に疑似体験しました。

生徒は「言葉が通じないことの不便を実感した」「沖縄市の人口に比較して、かに世界にウチナーンチュがたくさんいるのがわかった」と感想を述べていました。

アルゼンチンと沖縄、ことばの違いを超えて

### 沖縄市 文化観光課交流員

### 花城カーリーナさん

(アルゼンチン移民二世)

花城カーリーナさんのご両親は、沖縄市出身で一九五〇年代に渡航したアルゼンチン呼び寄せ移民でした。

三十年後、ご両親とともに沖縄に引き揚げ、アルゼンチン生まれのカーリーナさんは、中学校に入学しました。

学校では、育った環境や言葉の違いから学校生活に馴染めず悩むこともあり、その頃耳にした沖縄民謡に懐かしさを覚えたといいます。

アルゼンチンにいた頃は、祖父が三線を弾きながら歌った沖縄民謡を聞いても、興味がなかったものの、

帰国後に聞いた歌三線は違和感がなく、祖父から受け継いだアイデンティティを自覚したそうです。

現在、沖縄市の国際交流事業にかかわるかたわら、沖縄とアルゼンチン、両方の文化を大切にして次世代に受け継ごうと、日系移民子弟とのネットワークを生かした企画展「研修員がみた沖縄」を開催。

また「世界のウチナーンチュ大会」に参加するなど、両国の相互理解のため頑張っています。



花城カーリーナさん

## 第4回 世界のウチナーンチュ大会

**前夜祭** 平成18年10月11日(水)

**本大会** 平成18年10月12日(木)～15日(日)

**会場** 沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館  
宜野湾海浜公園・宜野湾市民会館・沖縄県立武道館  
奥武山総合運動公園・沖縄県総合運動公園

## Event

**11 WED** 前夜祭パレード  
各国からの参加者が思い思いの衣装で国際通りをパレードします。

**12 THU** 開会式  
開会宣言、各国県人会紹介、ウチナー民間大使紹介を含め、感動的な演出による歓迎のセレモニーを行います。

**15 SUN** フィナーレ  
大会の成功を祝い、ウチナーネットワークの継承と発展を全員で誓う感動のフィナーレ。

**経済交流**  
ワールドバザール ワールドビジネスフェア

**スポーツ交流**  
国際交流ゲートボール大会 空手道・古武道交流祭

**文化交流**  
ウチナーンチュ交流祭 沖縄伝統芸能祭 沖縄郷土劇場

**ウチナーネットワーク**  
ウチナーンチュシンポジウム ワールド学生会議



ブエノス・アイレス市の中心地にあるアルゼンチン沖繩県人連合会館

海外移民の第一歩がここから：

### 移民の歴史物語アルゼンチン編

Since1908

洗濯業、野菜・花き栽培で道を拓いた先人たち

一九〇八年(明治四十二年)、沖縄の第二回ブラジル農業契約移民三百二十五人は移民船「笠戸丸」でサントスに上陸。そのうち百三十四人が契約地のコーヒー園からアルゼンチンへ転住しました。

これが、沖縄のアルゼンチン移民の始まりとされ、その後もペルー、ブラジルから同国へ転住者が相次ぎました。

その背景には、当時アルゼンチンは南米一の先進国で、小さなパリと称された首都の文化都市ブエノス・アイレスでは、賃金や成功の可能性が高いなど、移民にとって整った環境がありました。

一九一三年(大正二年)から、外務省認可のもと、正式に呼寄せ移民が開始され、以後毎年同国への移民事業が続けられます。

その四年後には、ブエノス・アイレスに沖縄県人会が設立されます。勤勉で実直な県系移民は同国で評価が高く、洗濯業などで先に大成した人々は、相互扶助の精神で県系移民の生活の基盤を支え合いました。

戦後は自営農業者として渡航形態も加わり、県系移民の洗濯業、野菜・花き栽培などを職業に活躍していききました。

(アルゼンチンのウチナーンチュの80年史)参照